

# 男女の働き方と仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） に関する調査結果概要

～ 少子化と男女共同参画に関する意識調査より～

## 調査概要

### ・調査目的

本調査は、「少子化と男女共同参画に関する専門調査会」の検討に資するため、少子化と男女共同参画に関する結婚・子育て期の男女の意識を把握することを目的に実施した。特に、男女の働き方の実態と意識が、職場の仕事と生活の調和（以下、ワーク・ライフ・バランス）の推進状況とどのような関係にあるか、職場のワーク・ライフ・バランスの推進状況が仕事の効率性や就業意欲とどのような関係にあるか等に注目している。なお、本調査研究は、(株)三菱総合研究所に委託して実施した。

### ・調査方法・対象

#### 1. 調査対象

全国47都道府県の25-44歳の男女

各都道府県ごとに男女2区分×年齢3区分を設け、各都道府県の各区分に同数のモニター数を割り当てて調査票を配布・回収。

#### 2. 調査手法

インターネットモニター調査による。

#### 3. 調査票回収状況と回収率

配布数：18,800票 有効回答数：6,415票 回収率：34.10%

#### 4. 調査実施時期

2006年1月

(注) 1. 結果概要において、属性別の分析を行うにあたっては、「有配偶」を「既婚」、「無配偶・子どもなし」を「独身」と置き換えて表記している。

2. 結果概要における「ワーク・ライフ・バランス実現度」とは、「あなたにとって、仕事と生活のバランスは、うまくとれていると思いますか」という設問に対する回答を指し、回答（1. そう思う、2. ややそう思うなど）が肯定的なほど「実現度が高い」とみている。

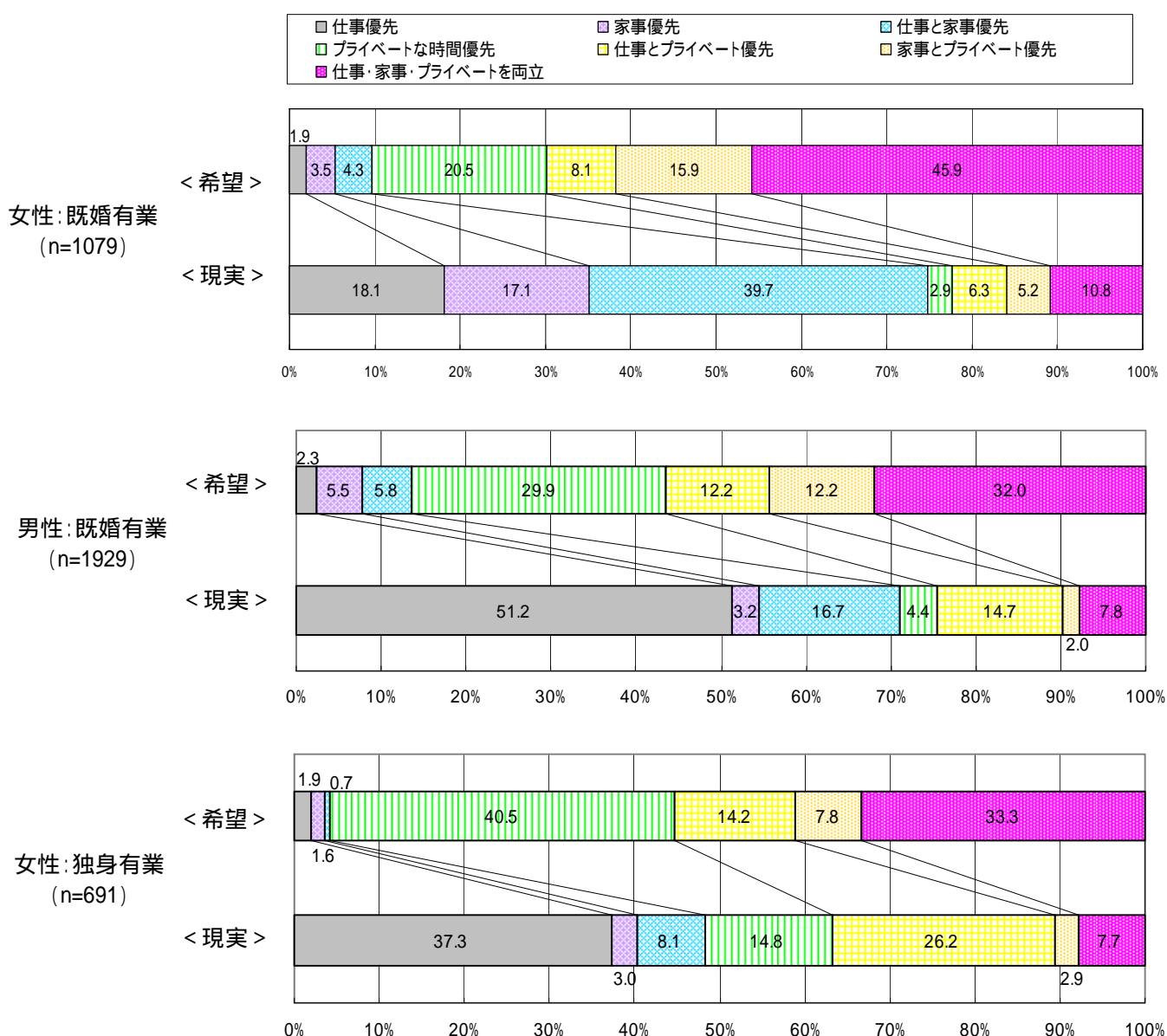
## 調査結果

### ・ 属性別ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

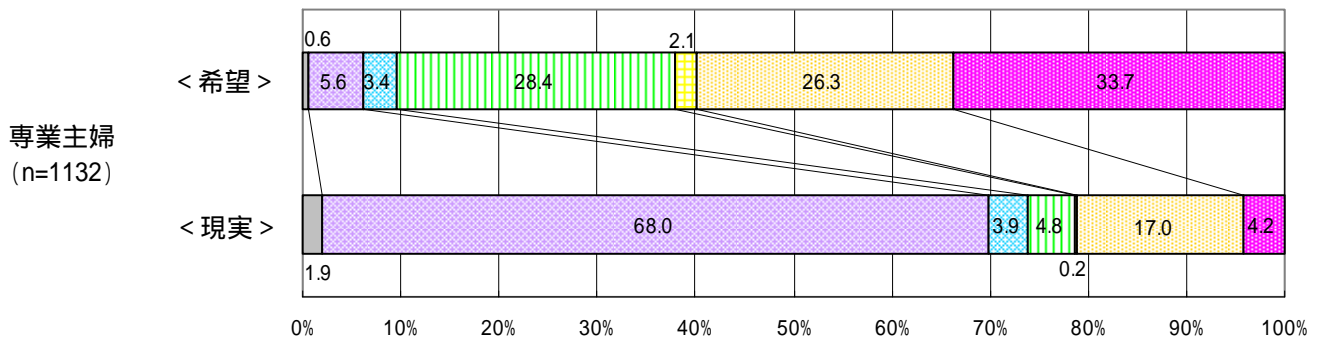
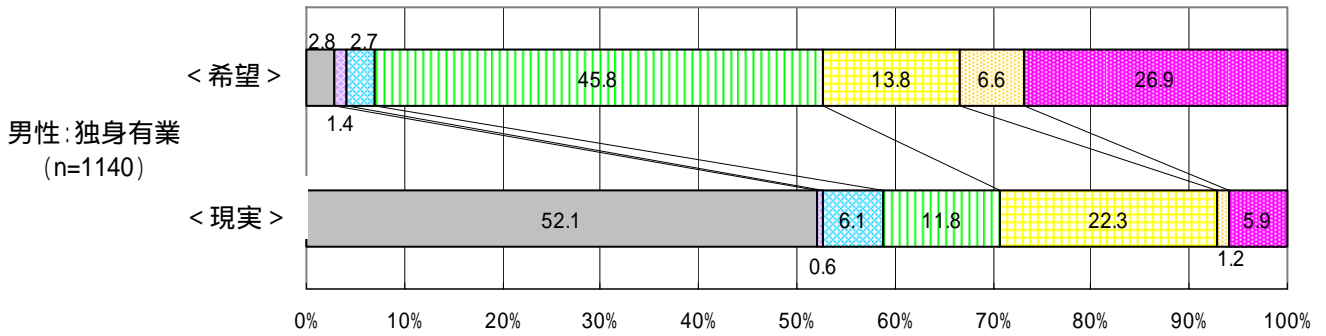
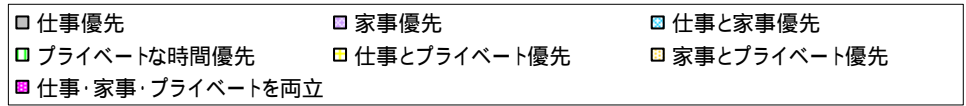
1. ワーク・ライフ・バランスの希望と現実については、既婚者では「仕事・家事・プライベートを両立」することを希望する人が男女ともに多いが、現実としては、女性では「仕事と家事優先」、男性では「仕事優先」となっている人が多い。

独身男女では、「プライベートな時間優先」や「仕事・家事・プライベートを両立」することを希望する人が多いが、現実には男女ともに「仕事優先」となっている人が多く、特に男性では「仕事優先」の希望と現実のギャップが大きい(図表1)。

図表1 属性別のワーク・ライフ・バランスの希望と現実<sup>1</sup>



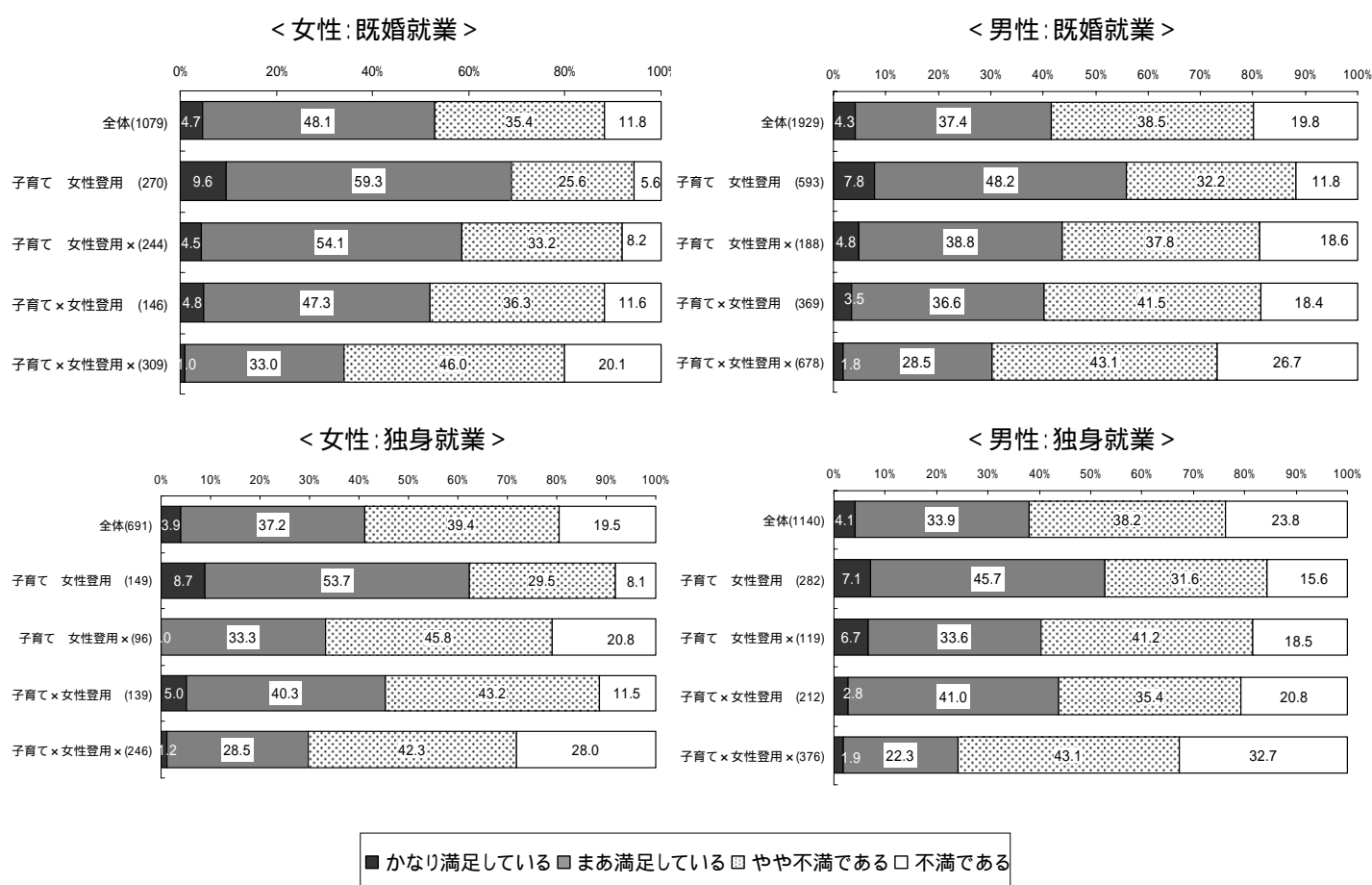
<sup>1</sup> 「生活の中での、仕事・家事(育児)・プライベートな時間(趣味など)の優先度についておうかがいします。『現実』としての優先度と、『希望』の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、1つずつお選び下さい」への回答。



## ・職場環境と仕事の満足度、意欲およびワーク・ライフ・バランス実現度

1. 職場が「子育てしている人が働きやすい」「女性登用が進んでいる」環境である方が、既婚女性のみならず、既婚男性や独身男女も「仕事の満足度」が高い（図表2）。
2. 「仕事への意欲」も、「子育て」「女性登用」の環境が両方揃っている場合、男女ともに意欲が高いが、一方の環境しか整っていない場合は、「女性登用」が進んでいる方が、男女ともに意欲が高い（図表3）。
3. 「ワーク・ライフ・バランス実現度」も、「子育て」「女性登用」の環境が整っている職場にいる人の方が、既婚・独身を問わず男女ともに高くなっている。女性の場合は、特に「子育て」環境がある職場で高くなっている（図表4）。

図表2 職場環境（子育てしやすい、女性登用）<sup>2</sup>と仕事の満足度

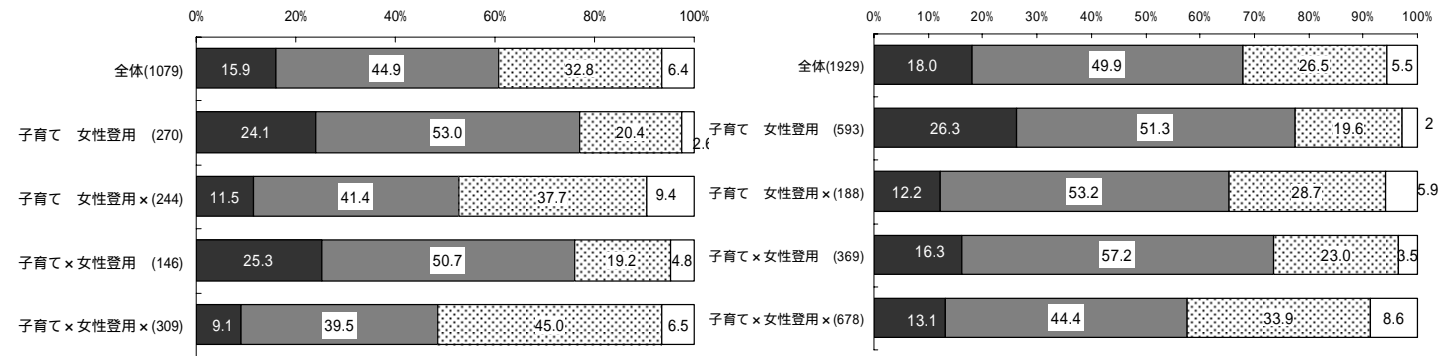


<sup>2</sup> 「子育て」に関しては「あなたの職場は、子育てをする人（男女を問わず）にとって働きやすいと思いますか」、「女性登用」に関しては「あなたの勤務先（事業）では、女性が男性と同じように昇進する機会や責任ある地域に就く機会があると思いますか」と聞いている。それぞれ「そう思う」と「ややそう思う」と答えた人を、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と答えた人を×としている。

図表3 職場環境（子育てしやすい、女性登用）と仕事への意欲

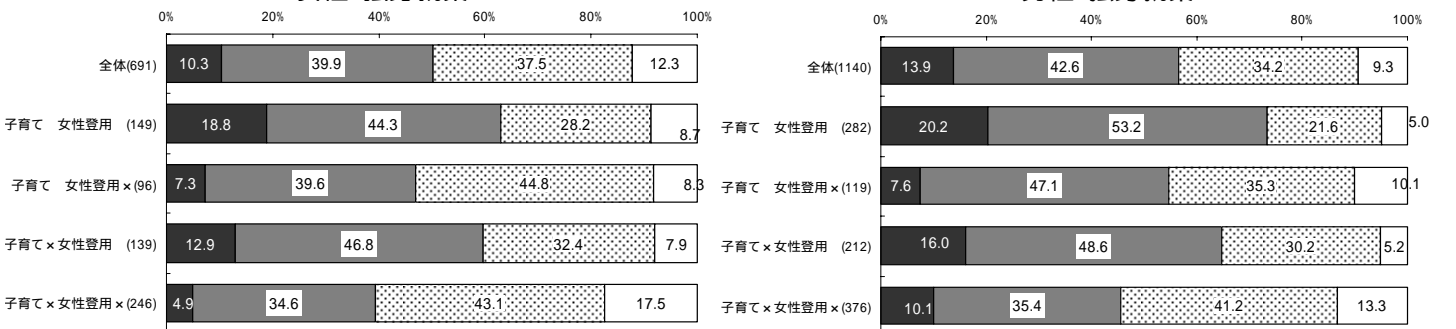
<女性:既婚就業>

<男性:既婚就業>



<女性:独身就業>

<男性:独身就業>

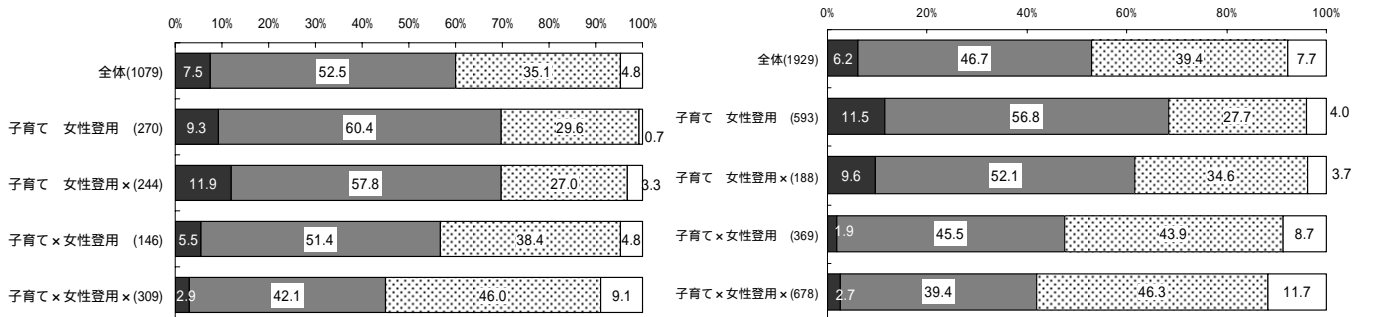


■ そう思う ■ ややそう思う □ あまりそう思わない □ まったくそう思わない

図表4 職場環境（子育てしやすい、女性登用）とワーク・ライフ・バランス実現度

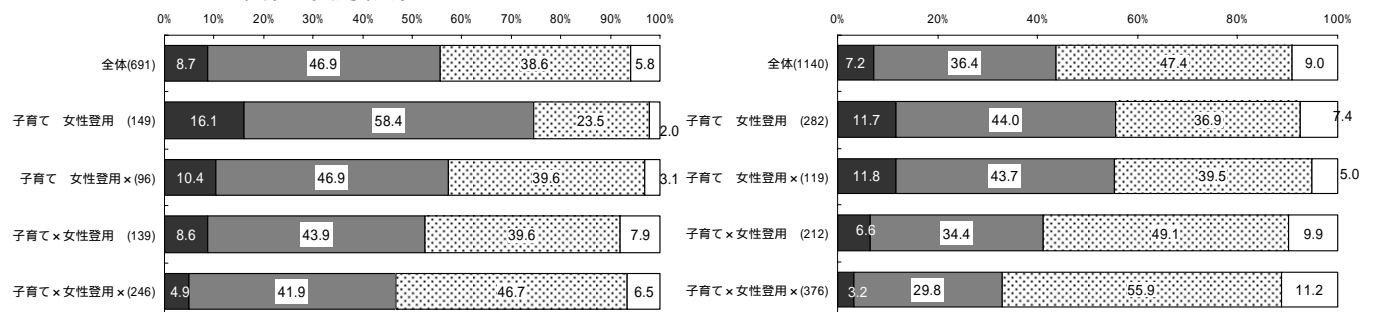
<女性:既婚就業>

<男性:既婚就業>



<女性:独身就業>

<男性:独身就業>

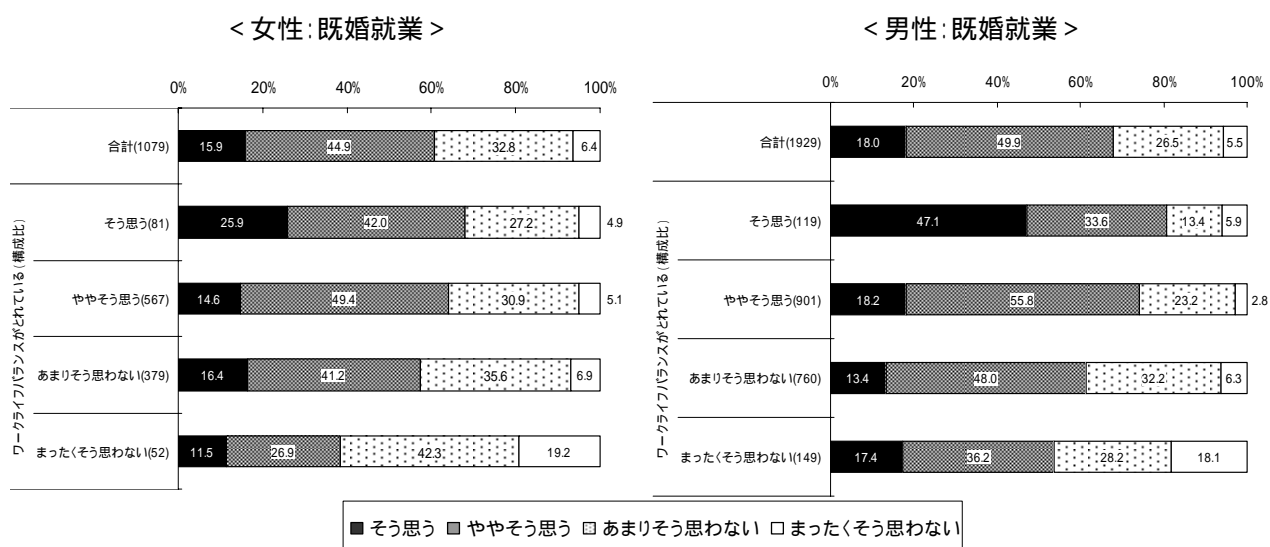


■ そう思う ■ ややそう思う □ あまりそう思わない □ まったくそう思わない

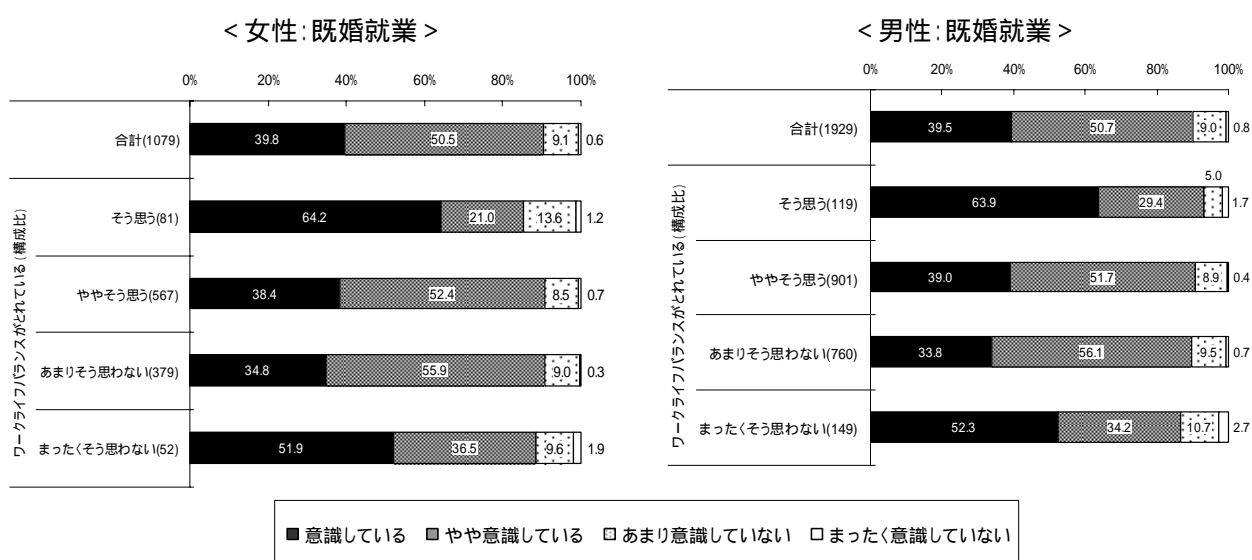
## ．ワーク・ライフ・バランスと仕事への意欲

- 1．既婚の男女ともに、ワーク・ライフ・バランスが図られていると考える人の方が仕事への意欲が高い傾向にある（図表5）。
- 2．仕事の効率に対する意識は、ワーク・ライフ・バランスが図られている人といない人の両極で高くなっている（図表6）。同じ「効率を意識する」という回答だが、「意識して効率よく働いている」というような意味と、「職場の効率がよくないと意識している」というような意味に分かれていると推測される。

図表5 ワーク・ライフ・バランス実現度と仕事への意欲<sup>3</sup>



図表6 ワーク・ライフ・バランス実現度と仕事の効率に対する意識<sup>4</sup>

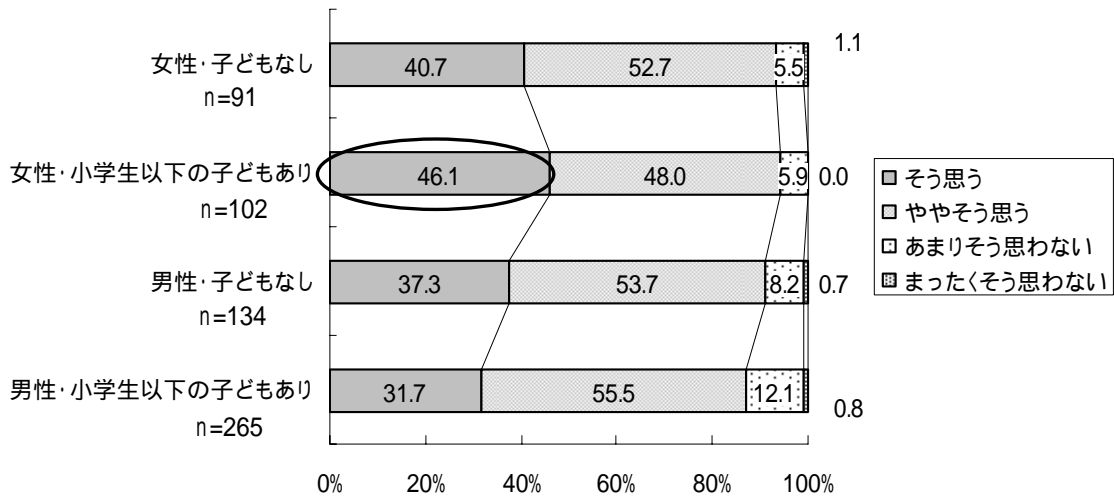


<sup>3</sup> 「仕事への意欲」：「あなたは、今の仕事に目的意識を持って積極的に取り組んでいますか」への回答。

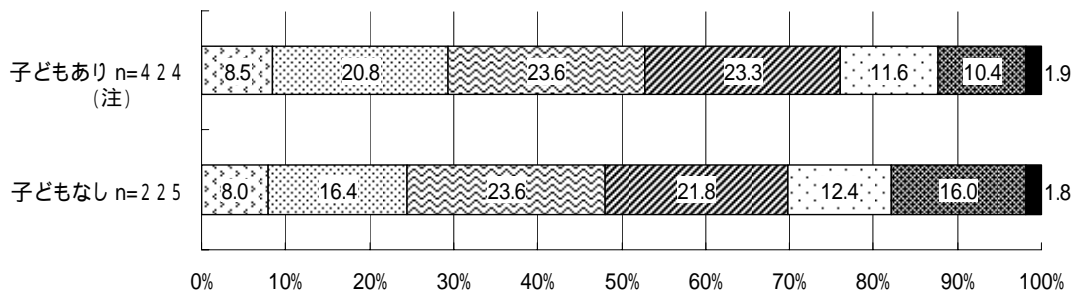
<sup>4</sup> 「仕事の効率に対する意識」：「あなたは、普段、短い時間で効率よく進めることを意識していますか」への回答。

3. 仕事に対する効率意識について、夫婦ともに正規の職員である男女で比較すると、「小学生以下の子どもがいる女性」で「短い時間で仕事を効率よく進めることを意識している」人が多い(図表7)。夫婦の家事・育児分担の割合をみると、子どものいる家庭でも妻が7割以上負担をしている家庭が87.8%に上り、子どものいる家庭の夫は、子どものいない家庭の夫よりも負担割合が低い実態がある(図表8)。また、「小学生以下の子どもがいる女性」は、男性や子どものない女性よりも午後7時までに帰宅している人が多い(図表9)。家事・育児の責任が女性に多くかかっている中で、保育所のお迎えや子どもの夕食の時間等に間に合わせるべく、仕事の効率を強く意識している子育て中の女性の様子がうかがえる。

図表7 夫婦ともに正規職員である男女の仕事に対する効率意識



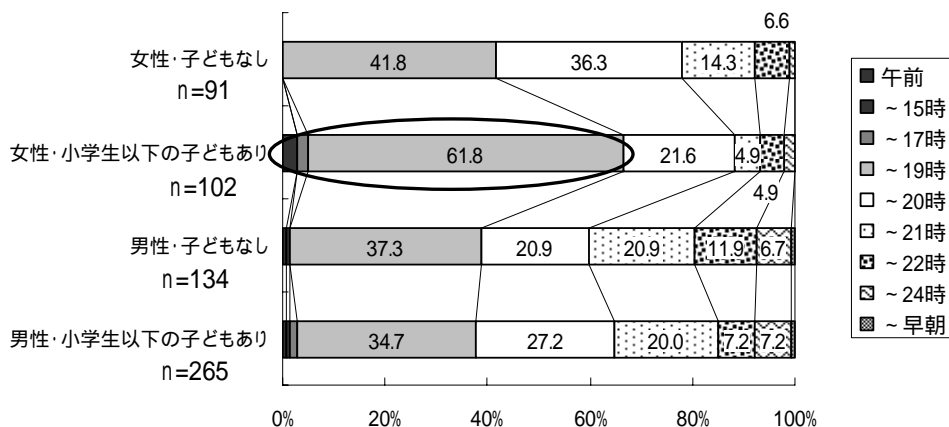
図表8 夫婦ともに正規職員である家庭の家事・育児分担割合



すべて妻がおこなっている
  妻が9割、夫が1割
  妻が8割、夫が2割
  妻が7割、夫が3割  
 妻が6割、夫が4割
  妻と夫半々
  夫が6割以上

(注) 子どもあり: 小学生以上の子どもも含む。

図表9 夫婦ともに正規職員である既婚男女の帰宅時間



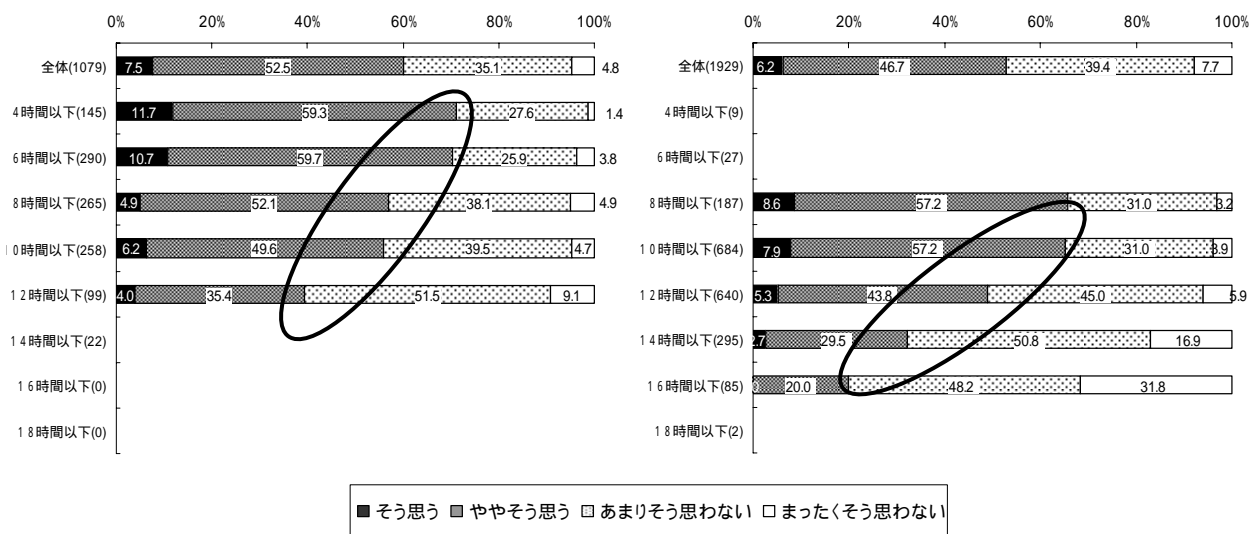
## ・就業時間とワーク・ライフ・バランス

1. 既婚有業の男女では、勤務時間と通勤時間を合わせた「仕事時間」が短い人ほど、ワーク・ライフ・バランスが図れていると感じる人が多い(図表10)。
2. 就業時間・日数の変更希望については、全体では「就業時間や日数を柔軟に変えられるようにしたい」と考える人が多く、一律に減らすことよりも柔軟性を求める人が多い。ただし、ワーク・ライフ・バランスが図られていないと考える人ほど、「就業日数や時間を減らしたい」と答える割合が高い(図表11)。

図表10 勤務時間 + 通勤時間とワーク・ライフ・バランス実現度

< 女性: 既婚有業 >

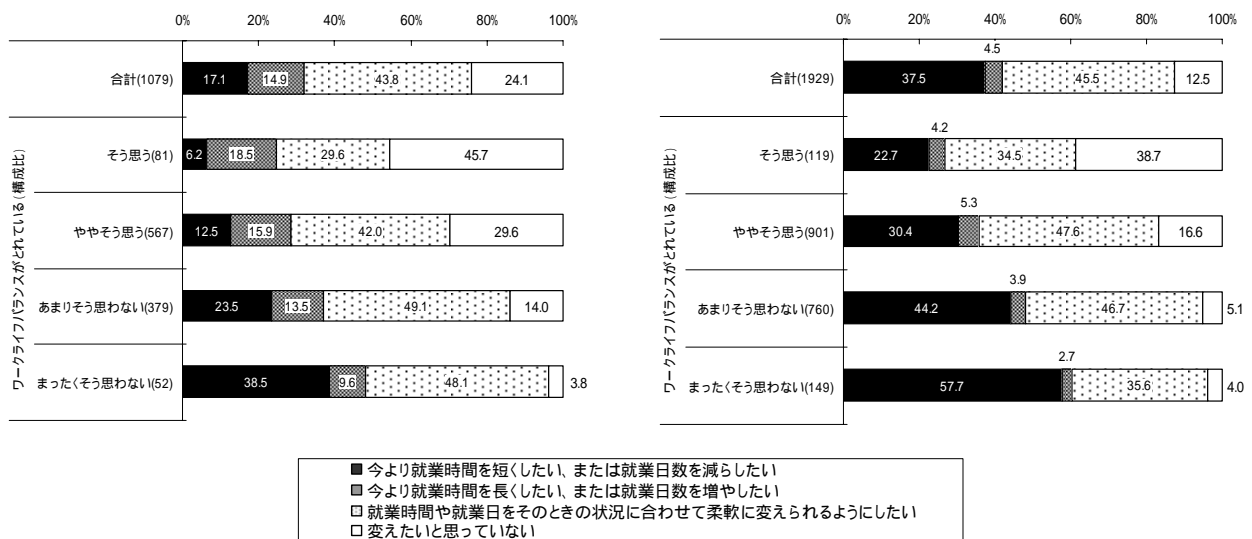
< 男性: 既婚有業 >



図表11 ワーク・ライフ・バランス実現度と就業時間・日数変更意向

< 女性: 既婚有業 >

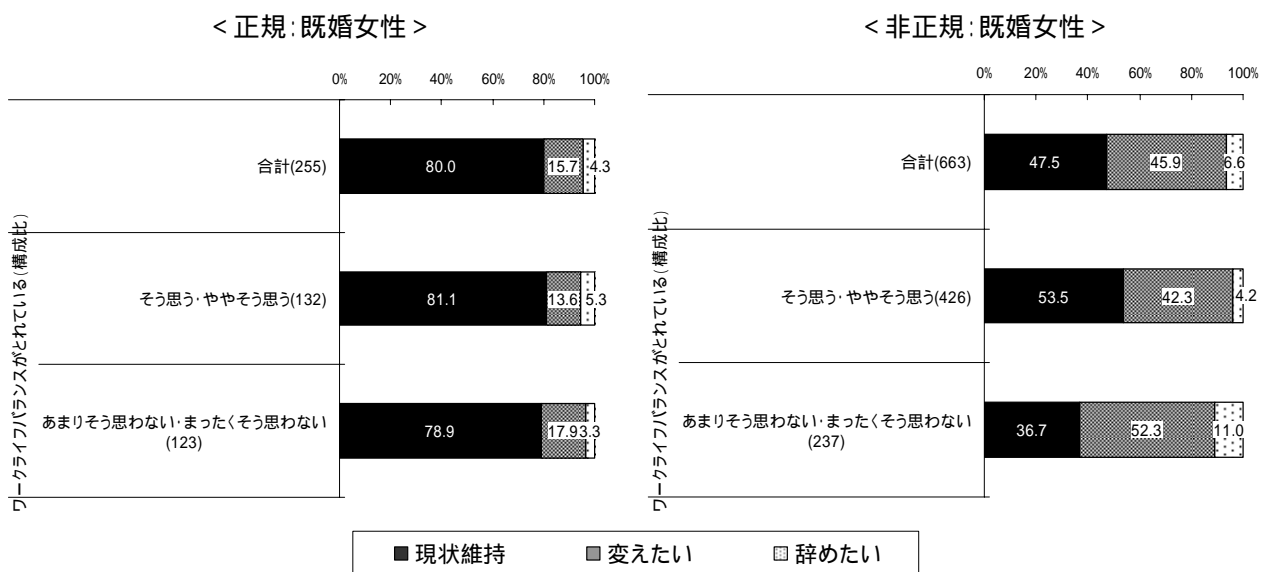
< 男性: 既婚有業 >



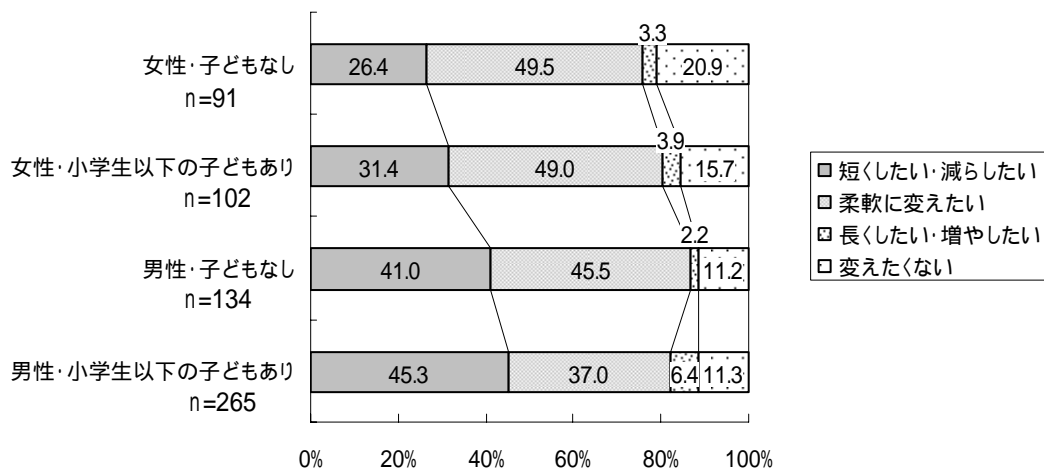


3. 既婚有業の正規・非正規の女性でみると、正規女性では、ワーク・ライフ・バランスが図られているかどうかに関わりなく、正規従業という現在の就業形態の維持を望んでおり、非正規女性では、ワーク・ライフ・バランスが図られていない層ほど、非正規という就業形態を「変えたい」、あるいは「辞めたい」とする人が多い(図表12)。
4. 夫婦ともに正規の職員である男女では、男性の方が、就業時間を短くしたい・減らしたい」という人が多く、特に、「小学生以下の子を持つ男性」に多い(図表13)。

図表12 ワーク・ライフ・バランス実現度と就業形態の変更意向<sup>5</sup>



図表13 夫婦ともに正規職員である男女の就業時間・日数変更意向

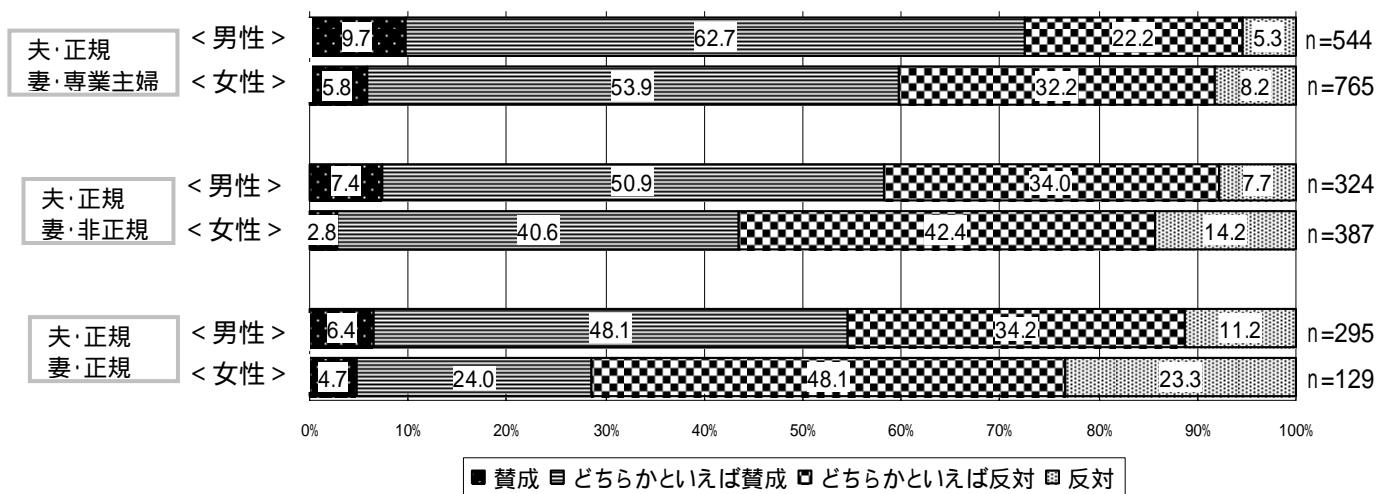


<sup>5</sup> 「あなたの現在の就業状態をお教えてください。また、あなたが今後希望する就業状態をお選び下さい。」という問いに対し、現在と希望が同じ場合 = 「現状維持」、現在と異なる就業状態 = 「変えたい」、学生、無職希望 = 「辞めたい」としている。就業状態の選択肢は、1. 会社の経営者・役員、2. 正規の職員・社員、3. パート・アルバイト、嘱託、派遣従業員など非正規従業員、4. 自営業・家族従業者(家族以外の人を雇っている)、5. 自営業・家族従業者(家族以外の人を雇っていない)、6. 学生、7. 無職・専業主婦(主夫)。

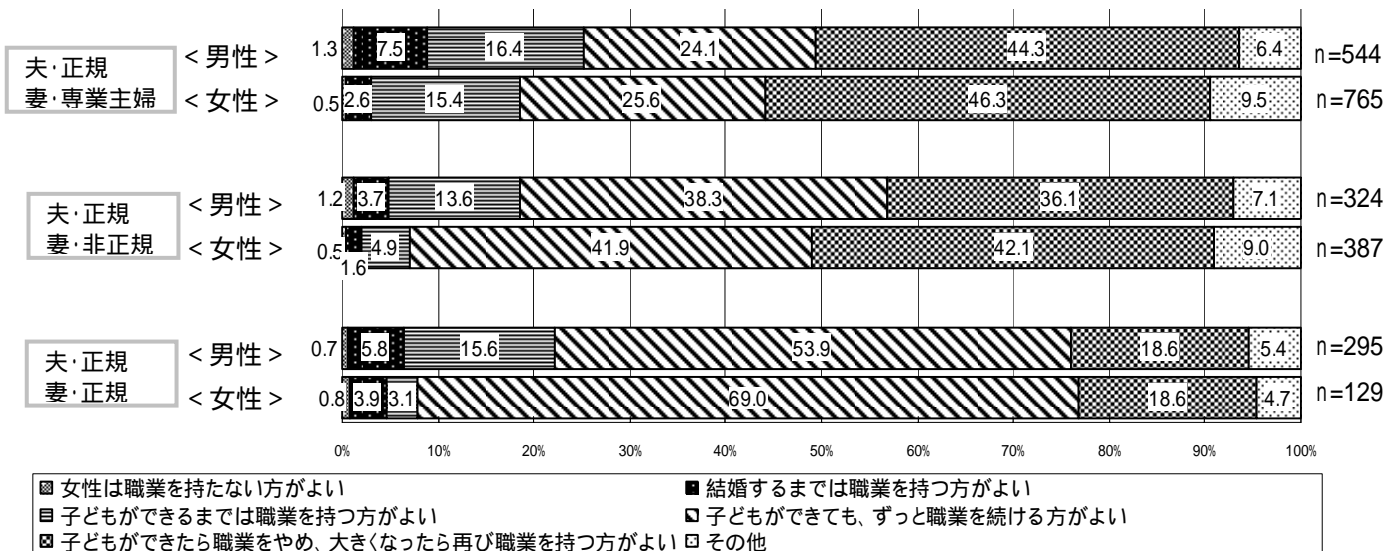
・ 属性別の男女共同参画意識（働き方の背景にある意識）

1. 子どものいる男女の就業形態の組み合わせ別に固定的役割分担意識（夫は外で働き、妻は家庭を守るべき）に対する考え方を聞いたところ、いずれの組み合わせにおいても、男女に意識差があった。特に、正規同士の夫婦の場合、男女の意識差が大きい（図表14）。
2. 一般的に女性が働くことに対する考え方については、妻が正規あるいは非正規で働いている場合に、男性で「子どもが生まれるまでは職業を持つ方がよい」と考える人が、女性よりも多い部分で、男女間に差がある。また、専業主婦の場合でも、「子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と考える人が男女ともに多い（図表15）。

図表14 子どものいる男女の就業形態別<sup>6</sup>「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に対する意識



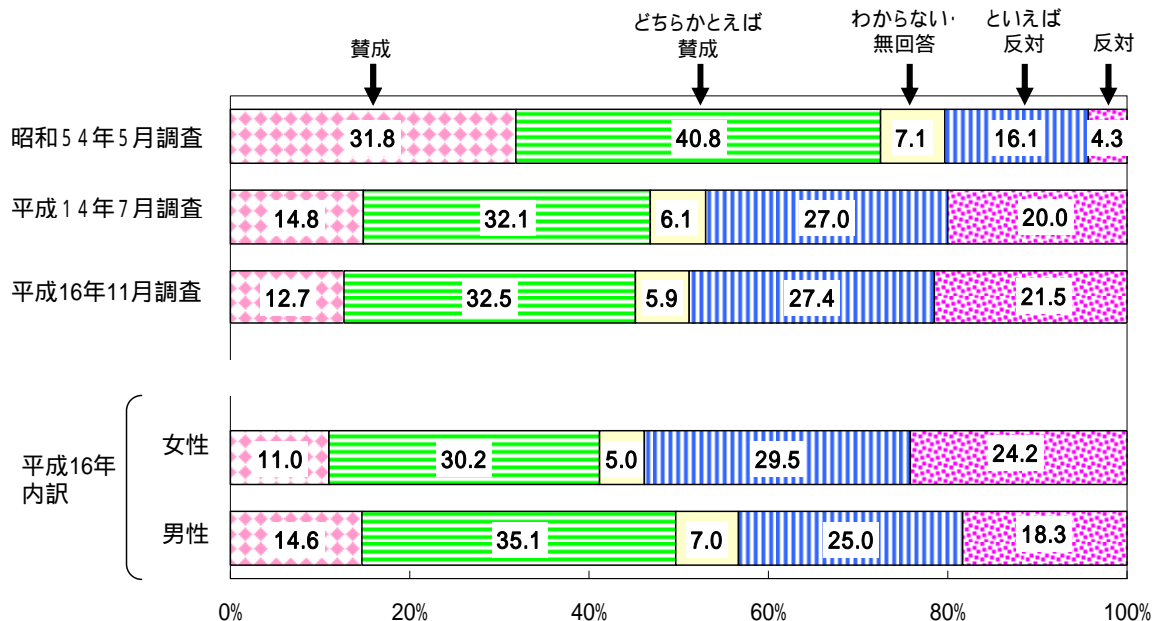
図表15 子どものいる男女の就業形態別「一般的に女性が職業を持つこと」に対する意識



<sup>6</sup> 本人と配偶者の就業形態の組み合わせでグループ化した。

<参考> 内閣府「男女共同参画に関する世論調査」

図表16 「固定的役割分担意識（夫は外で働き、妻は家庭を守るべき）」に対する意識



図表17 「一般的に女性が職業を持つこと」に対する意識

